

府中市図書館協議会意見書について

1 趣旨

府中市新総合体育館基本構想が策定されたことに伴い、府中市立生涯学習センター図書館の在り方について、令和 8 年 2 月 1 8 日に意見書が提出されたので、その概要について報告するものです。

2 意見書の内容

- (1) はじめに (本文掲載 1 ページ)

冒頭文として、意見書の趣旨を説明しています。

- (2) 基本的な考え方 (本文掲載 2 ページ)

図書館機能の公共性・継続性を確保しつつ、他施設との連携による相乗効果や市民サービスの向上を目指す観点から、整備の方向性について提案がされています。

- (3) 施設配置の方向性 (本文掲載 2 ～ 3 ページ)

府中市文化・スポーツ施設配置等適正化計画や府中市新総合体育館基本構想を踏まえ、3つの観点から配置の方向性が整理されています。

- (4) 複合化の利点 (本文掲載 3 ～ 4 ページ)

体育施設との複合化により享受する利点が 4 つに整理されています。

- (5) 市民ニーズの反映 (本文掲載 4 ～ 5 ページ)

協議会からの具体的な提案が示されています。

- (6) まとめ (本文掲載 6 ページ)

今後の施設整備において、地域特性や市民ニーズを的確に反映し、他施設との連携による相乗効果を最大限に発揮することが求められています。

3 今後の予定

意見書の内容を十分に踏まえ、今後の府中市立生涯学習センター図書館の整備に関する協議に生かしてまいります。

府中市図書館協議会
意見書

令和 8 年 2 月
府中市図書館協議会

はじめに

令和6年12月に府中市図書館協議会（以下、「協議会」という。）から答申した「府中市地区図書館の整備に関する基本方針」において、各地区図書館の現状と課題を踏まえた整備の方向性を示しました。特に、生涯学習センター図書館については、府中基地跡地の整備との関連性から、当該答申では意見を控える旨を記載しています。

その後、府中市新総合体育館基本構想検討協議会からの答申（「新総合体育館基本構想（素案）」）を受け、府中市において、「府中市新総合体育館基本構想」を策定し、府中基地跡地の活用に関する具体的な方針が示されつつあります。これらの動向を受け、協議会としても、生涯学習センター図書館の在り方を含めた図書館機能の将来的な整備について、改めて検討を重ねてまいりました。

本意見書は、昨年度の答申を踏まえつつ、現在進行中の関連計画との整合性を図りながら、図書館機能の充実と市民サービスの向上を目指す観点から、協議会としての考えを整理したものです。

令和8年 2月18日

府中市図書館協議会

会 長 齊藤 誠一
委 員 小林清次郎
委 員 菅原 尚志
委 員 田中 治夫
委 員 福田 豊

副会長 野口 武悟
委 員 島田 文江
委 員 田中 泉
委 員 中山 広美
委 員 本田 幸子

1 基本的な考え方

図書館は、市民の知的活動を支える基盤として、地域における生涯学習の拠点であるとともに、文化・情報の交流を促進する公共施設です。昨年度の協議会の答申では、各地区図書館の整備に関する基本方針を示し、施設の老朽化や蔵書構成の偏り、利用者ニーズの変化など、現状の課題を明らかにしました。

府中市においては、令和6年度に「府中市文化・スポーツ施設配置等適正化計画」、今年度は「府中市新総合体育館基本構想」を策定し、府中基地跡地の活用を含む施設の再配置が検討されています。これらの計画は、図書館機能の再構築にも大きな影響を与えるものであり、協議会としても、これらの動向を踏まえた議論が必要であると認識しています。

特に、生涯学習センター図書館については、府中基地跡地の整備方針との関係性が深いことから、昨年度の答申では意見を控える形となりました。しかしながら、「府中市文化・スポーツ施設配置等適正化計画」や「府中市新総合体育館基本構想」において、図書館機能との複合化や連携の可能性が示唆されていることから、協議会としても、今後の整備に向けた基本的な考え方を整理し、関係計画との整合性を図る必要があると考えます。

本意見書では、図書館機能の公共性・継続性を確保しつつ、他施設との連携による相乗効果や市民サービスの向上を目指す観点から、整備の方向性について提案を行うものです。

2 施設配置の方向性

図書館機能の整備に当たっては、単独施設としての配置に加え、他の公共施設との複合化や連携による相乗効果を図ることが重要です。特に、近年の公共施設マネジメントの考え方では、施設の老朽化対策とともに、利用者ニーズの多様化に対応した柔軟な施設配置が求められています。

府中市では、令和6年度に策定された「府中市文化・スポーツ施設配置等適正化計画」において、文化・スポーツ施設の再配置方針が示されており、図書館機能についても、地域特性や利用状況を踏まえた機能・空間を検討することとなっています。

また、「府中市新総合体育館基本構想」では、府中基地跡地の活用により新たな体育施設の整備が予定されており、これに伴い、生涯学習センター図書館との複合化の可能性が示唆されています。

このような動向を踏まえ、協議会としては、以下の観点から施設配置の方向性を整理しました。

(1) **地域特性に応じた配置**

各地区図書館は、地域住民の身近な情報拠点として機能しており、徒歩圏でのアクセス性や地域コミュニティとの連携が重視されています。今後の配置においても、地域の人口構成や利用実態を踏まえた柔軟な配置が求められます。

(2) **複合化による機能強化**

体育施設との複合化により、施設の相互利用や運営効率の向上が期待されます。また、公園用地に整備されるということで、図書館、体育館、公園との連携は、図書館機能の再構築において重要な検討課題です。

(3) **利用者ニーズへの対応**

図書館の利用者層は多様化しており、子どもから高齢者、障害のある方、外国にルーツのある方など、誰もが利用する施設として、ユニバーサルデザインによる設計やICT環境の整備、学習スペースやキッズスペースの充実などが求められます。施設配置においても、こうした機能的側面を考慮した整備が必要です。

3 複合化の利点

複合化により、図書館機能は以下のような利点を享受できると考えます。

(1) **機能連携による利便性の向上**

新総合体育館には、スポーツ活動のみならず、会議室や学習スペースなど多目的に活用できる施設が整備される予定であり、図書館機能との連携により、学習・交流・情報提供の場としての利便性が高まります。

(2) **利用者層の拡大**

体育館利用者が図書館を併用することで、従来の図書館利用者層に加え、スポーツを通じた市民との接点が広がり、図書館の利用促進につながります。特に、若年層やファミリー層の来館機会が増えることが期待されます。

(3) **運営効率の向上**

施設の複合化により、設備の共有が可能となり、単独施設より財政的な効率性が向上します。また、イベントや講座などの企画においても、施設間の連携により多様な展開が可能となります。

(4) 地域拠点としての機能強化

複合施設は、地域住民が日常的に訪れる場としての役割を果たすことから、図書館が地域の情報拠点・学習拠点としての機能をより強化することができます。

なお、複合化に当たっては、図書館機能の独立性や静穏性の確保、蔵書スペースの充実、ユニバーサルデザインの採用など、図書館としての基本的な要件を満たすことが前提であり、図書館の従来の環境や機能が減退しないように最大限の配慮が求められます。

4 市民ニーズの反映

協議会では、「府中市新総合体育館基本構想（素案）」を策定するにあたり令和6年度に実施した市民ニーズ調査での市民意見の収集や施設整備に関する議論を踏まえ、以下のような具体的な提案を行います。

(1) 施設構造と動線設計

- ・ 複合施設ではあるが、専用の事務室やカウンター、バックヤードを設けるなど、図書館としての目的や機能を明確にすみ分けること。
- ・ 図書館の入口は、新総合体育館と別に設け、図書館としての静穏性と独立性を確保すること。ただし、館内からの出入りも可能とし、利便性を損なわない設計とすること。
- ・ 施設全体の統一的な計画によるサイン表示とすること。
- ・ 階層化される場合、誰もが利用する図書館として、エレベーター等の確保や資料の搬入経路を調整し、利用者にも職員にも配慮された動線を確保すること。
- ・ 開館時間に配慮した施設区分とエントランス機能とすること。
- ・ 返却ポストを設置すること。返却ポストは、市民の利便性に加え、図書館との動線も踏まえ設置すること。
- ・ 他施設利用者と駐車場利用を区別し、貸出・返却等による短時間利用者については、従前同様、無料となる料金設定とすること。

(2) 空間と機能の多様性

- ・ キッズスペースや親子向けエリアを設けるなど、子どもが来館しやすい環境とすること。また、音の許容を前提とした空間設計とすること。
- ・ 利用者の多様なニーズに応えるため、静かな読書スペースと、会話・交流が可能なラウンジや多目的スペースを併設すること。
- ・ 親子向けエリアでは、靴を脱いで上がれる場所やベビーカー置き場を設

置すること。

- ・ ガラス張りのスペースやテラス席を設け、書架も低いものを設置するなど、公園の緑を活用した広く明るい開放的な空間とすること。
- ・ 多様な利用ができるよう、自動貸出機やW i - F i を設置し、読書だけではなく、学習のために持ち込むパソコンやタブレットなどが利用しやすい環境の整備を行うこと。また、視聴覚ブースの設置も検討し、設置する際は、大人向けと子ども向けで分けて整備すること。

(3) 地域との連携と文化発信

- ・ 体育館、美術館、公園、浅間山などと地域住民をつなぐ「ハブ」としての機能を有すること。
- ・ スポーツや健康、地域の歴史に関する常設展示スペースを設置すること。

(4) 新たな学びと体験の提供

- ・ e スポーツやV R トレーニングに関する資料の収集、スポーツ戦術の3 D 解析やV R による動作学習など、マルチメディア学習環境を整備すること。
- ・ 知的活動の幅を広げるため、A I ・ V R を活用した次世代学習支援を導入すること。

(5) 居心地の良い空間と滞在型施設の実現

- ・ 運動後にリラックスしながら読書ができる「リカバリー空間」を設置すること。
- ・ 滞在型図書館としての魅力を高めるため、カフェや飲食スペース、屋外テラスなどを併設すること。
- ・ 屋外での読書を可能とするため、資料の持ち出しができる設計とすること。

(6) 防災・安全対策

- ・ 災害時の情報提供拠点としての機能を有すること。
- ・ ユニバーサルデザインを徹底した、すべての市民が安心して利用できる施設とすること。
- ・ 建物だけではなく、家具や書架にも地震対策を施し、低い書架を中心に配置すること。

5 まとめ

協議会としては、昨年度の答申を起点とし、今年度における関連計画の進展を踏まえた上で、図書館機能の整備に関する意見を改めて整理しました。

図書館は、市民の知的・文化的活動の基盤であり、今後の施設整備においては、地域特性や市民ニーズを的確に反映し、他施設との連携による相乗効果を最大限に発揮することが求められます。

本意見書が、府中市における図書館機能の充実と、より良い公共施設整備の一助となることを願います。